

ひょうご消防のつどい2023開催

～消防本部・消防団の幹部及び

関係者が高砂市文化会館に集う～

(公財) 兵庫県消防協会

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 安 満 真 哉

二〇二三年
全国統一防火標語
火を消して
不安を消して
つなぐ未来



次 第

第1部

開会のことば
国歌演奏

兵庫県消防協会会長あいさつ

高砂市長あいさつ

講演

「地域防災力の向上に向けて

：避難訓練から問い直す」

京都大学防災研究所 矢守 克也 氏

第2部

兵庫県知事式辞

表彰及び感謝

内閣総理大臣表彰受賞披露

兵庫県知事表彰・感謝

兵庫県消防協会会長表彰・感謝

来賓祝辞

受章者代表謝辞

閉会のことば



令和五年一月十九日
(日) 高砂市文化会館において、ひょうご消防のつどい二〇二三を開催しました。
このつどいは、兵庫県下の消防本部・消防団の幹部等が共に集い、永年にわたり消防業務に従事してきた消防吏員・消防団員の功績を讃えた表彰を行うとともに、幹部の研修として講師による講演を行い、士気の高揚と知識・技術の研鑽を深めることを通じて消防人の強固な団結と消防機関の連携体制を強化することを目的に実施しています。

表彰旗 一団体	加東市消防団
竿頭綬 三団体	高砂市消防団
	赤穂市消防団
	香美町消防団
功労章	
消防吏員の部	九五名
消防団員の部	四四名
永年勤続功労章	
消防吏員の部	一一一名
消防団員の部	三一八名
随時知事表彰	
団体の部	三団体
個人の部	一名
優良自主防災組織	
団体の部	九団体
個人の部	一名
永年勤続功労者賞	七名
家族の賞	五三六名
親子二代の賞	二三組
消防協力者賞	
個人の部	一名

兵庫県知事表彰

兵庫県消防協会会長表彰

表彰旗 一団体	姫路市香寺町消防団
竿頭綬 三団体	芦屋市消防団
	加古川市消防団
	豊岡市豊岡消防団
功績章	一一六名
精績章	一九七名
勤続章	六二九名
精勤章	三九八名
夫婦団員の賞	一組
家族の賞	三〇年一〇四名
	四〇年 一五名



令和5年度兵庫県・丹波地域合同防災訓練実施！

警察・消防・自衛隊の約60機関800人が参加



丹波市立柏原住民センターの会場の様子



ペット同行避難



ドローンによる物資搬送

令和五年九月三日(日)兵庫県・丹波地域合同訓練を実施しました。県では毎年、防災週間にあわせて地域の市町と共催した合同防災訓練を実施しています。訓練の詳細については、次のとおりです。

一 訓練の目的

関係機関が相互に連携し、高齢者等の要配慮者、女性・子ども・外国人やペットの同行避難など、被災者のニーズに配慮した避難所の設置・運営訓練のほか、救出救助訓練、重傷者広域搬送訓練等を実施することにより、県民の防災意識の高揚と地域防災力の向上を図る。

二 実施場所

- (一) 県立丹波の森公苑(メイン会場・丹波市)・救出救助訓練・水防工法訓練
- (二) 丹波市立柏原住民センター(多様なニーズに配慮した避難所の設置・運営訓練)

三 想定

- (一) 大雨による河川の氾濫や土砂崩れなど大規模な災害の発生
- (二) 迅速な情報伝達および災害対策本部等設置訓練の実施
- (三) 水防・土砂災害警報等の気象情報の収集と防災無線を活用した避難情報

四 訓練の特徴

- (一) 迅速な情報伝達および災害対策本部等設置訓練の実施
- (二) 水防・土砂災害警報等の気象情報の収集と防災無線を活用した避難情報

五 訓練内容

- (一) 実践訓練
 - 情報伝達・災害対策本部設置訓練(丹波市・丹波篠山市)
 - 水防訓練(越水対策・土のう積み)(丹波市)
 - 道路啓開訓練(丹波市)
 - ライフライン復旧訓練(丹波市)
 - 合同指揮所設置訓練(丹波市)
 - 救出・救助訓練(丹波市)
 - 応急救護所・大規模救出所設置訓練(丹波市)
 - 重傷者広域搬送訓練(丹波市)
 - 丹波地域保健医療情報センター設置訓練(丹波市・丹波篠山市)
 - ボランティアセンター設置・運営訓練(丹波市)
 - ペットの同行避難訓練(丹波市)
 - 協定事業者による陸路物資搬送訓練(丹波市)
- (二) その他
 - 各種展示(災害対応車両・資機材・パネル)
 - 調理実演(パッキング)

六 主催

- 避難所の開設・運営
- 災害時協定事業者と連携した避難所への物資搬送・受入訓練
- 土のう積みや止水パネル等の資機材を活用した越水対策
- 氾濫箇所等からの救出を想定したロープレスキューやヘリによる吊り上げ救助等
- 医療機関や丹波市立看護専門学校と連携した大規模救出所の設置・運営
- 多様なニーズに配慮した避難所の設置・運営訓練
- 要配慮者、子ども・女性の被災者に対応した独立・専用スペースの確保、外国人被災者やペットの同行避難への対応
- 避難行動要支援者の受け入れを想定した福祉避難所の開設・運営

七 参加機関・団体

- 兵庫県・丹波地域合同防災訓練実行委員会(兵庫県・丹波篠山市・丹波市)
- 兵庫県、丹波篠山市、丹波市、丹波篠山市消防本部、丹波市消防本部、陸上自衛隊、近畿地方整備局、神戸地方気象台、兵庫県警察、兵庫県災害医療センター、日本赤十字社、医療機関(DMAT、JMAT、DPAT、各病院救護班等)、兵庫県医師会、兵庫県看護協会、兵庫県歯科医師会、兵庫県歯科衛生士会、兵庫県薬剤師会、兵庫県臨床検査技士会、兵庫JRAAT、ひょうごボランティアプラザ、兵庫県養士会、兵庫県防炎士会、兵庫県柔道整復師会、兵庫県国際交流協会、丹波篠山市社会福祉協議会、丹波市社会福祉協議会、ひょうご地域防災サポート隊、兵庫県建設業協会、兵庫県トラック協会、日本自動車連盟(JAF)、兵庫県自動車修理業・レッカー事業者協同組合、兵庫県自動車整備振興会・警備業協会、兵庫県石油共同組合・商業組合、兵庫県LPガス協会、日本レスキュー協会、神戸学院大学、関西電力送配電(株)、西日本電信電話(株)、大阪ガスネットワーク(株)、ソフトバンク(株)、ドコモビジネスソリューションズ、KDDI(株)、楽天モバイル(株)、ヤマト運輸(株)、佐川急便(株)、AZI-COM丸和支援ネットワーク、(株)コスモライフ等

第88期 初任教育査閲・卒業式

(公財)兵庫県消防協会



第88期初任教育スローガン

ひゃくせつふとう
**「百折不撓 頑張る時はいつも今
 その継続が力となる」**



令和五年九月三日(土)、兵庫県消防学校にて第八八期初任教育査閲が執り行われました。一三五名の教育生たちは、半年間厳しい訓練を積み重ね、その遅しく成長した姿をご家族をはじめ関係来賓の皆さま、そして各消防本部の消防長を



前に、余すところなく披露しました。そして査閲を終えた教育生達は九月二十七日(水)に卒業式を終え、それぞれの所属において「消防人」としての新たな一歩を踏み出しました。

第八八期初任教育のスローガンである「百折不撓(ひゃくせつふとう)」、「これは「何度失敗してもくじけずに立ち上がること。どんな困難にも臆せず、初めの意志を貫くこと」という意味を持つ四字熟語です。

教育生たちは、数々の厳し



い訓練の中で体力の限界を感じ、気持ちで負けそうになる時もお互いに励まし合い常に前を向き、心をひとつに乗り越えてきました。訓練を重ねるごとに消防士に課せられた使命と責任の重さを強く感じるとともに、人を助けることの難しさを実感し、その時心に刻んだ言葉がこの「百折不撓」という四字熟語だったそうです。

この言葉を胸に刻んだ第八八期一三五名の消防士たちは、これから現場の最前線において消防士としての使命を果たすため、常に前を向き努力を続けてくれることでしょう。





第二八回全国女性消防団員活性化石川大会

公益財団法人兵庫県消防協会



秋本会長のご挨拶



石川大会の様子①



石川大会の様子②

令和五年二月一六日(木)、いしかわ総合スポーツセンター(石川県金沢市)にて、「第二八回全国女性消防団員活性化石川大会」が盛況に開催されました。

消防団員の皆さまは、日頃からそれぞれの職業(会社員、自営業、公務員など)に従事しながら、有事の際は消防団員として活動されています。なかでも女性消防団員の皆さまは、女性消防団員ならではの

の視点できめ細やかな活動も多く、その活動の場は、今後さらに拡大するものと期待されています。

そうしたなかで、多くの住民の安心・安全を守る重要な役割を担い、ますます女性消防団員の活躍が期待されます。

この度、全国の女性消防団員が一堂に会するこの機会に、日頃の活動事例発表などを通じて積極的に情報交換し、交流を深め、今後の女性消防団

員の更なる確保とその活動の充実を図るために、開催されました。

大会当日は晴天に恵まれ、全国各地より女性消防団員や各消防団幹部等関係者六七名内、女性団員四五人が集いました。

原消防庁長官、秋本日本消防協会会長、馳石川県知事、村山金沢市長の挨拶に続き、さまざまな活動発表、シンポジウムにおいての活動事例発

表を行い、能美市消防団の濱谷氏の閉会宣言で幕を閉じました。

そのあと、ホテル金沢にて情報交流会が催されました。

他府県の女性消防団員の方々との交流の機会を得て、さまざまな活動発表を知ることができ、今後の活動への取り組みについて考えを深め、良い刺激になったのではないのでしょうか。

これを機に、女性消防団員の皆さまの活動がさらに充実し、女性消防団員の入団促進や地域防災力の強化に繋がることを期待しています。

大会のプログラムについては、以下のとおりです。

八時三〇分

▼開場

九時三〇分

▼ウエルカムコンサート

一〇時一〇時三四分

▼開会式 開会宣言 国歌斉唱、原消防庁長官、秋本日本消防協会会長挨拶、馳石川県知事、村山金沢市長挨拶

一〇時三五分

▼さまざまな活動発表

大阪府女性消防団…

おおさか救命体操

山口市消防団…

パネルシアター「けんちゃんまりちゃん」

防災ダンス「さるさるサンバ」

大分市消防団…

大分市オリジナル防災紙芝居(シルルとミルルのおおいたさがいさーち)

小松市消防団…

豪雨災害の経験を機に取り組んでいる「女性分団の出前講座」

一一時五五分

▼アトラクション

一二時四五分

▼記念講演…テーマ「女性団員を含めた女性活躍社会」

一三時四五分

▼シンポジウム 事例発表

秋田県大仙市消防団…

コロナ禍で見つけた!「私たちの新たな消防団活動」リユースグッズ大作戦

東京都赤羽消防団…

消防団とジェンダー観—男性社会における女性消防団員—

パネルディスカッション(テーマ…女性団員の現状とこれから)

一五時二五分

閉会式 閉会宣言 能美市消防団

表を行

るサン



『地域に根差した消防団活動』 市川町消防団

【自然豊かな地域】

市川町は、兵庫県のほぼ中央に位置するハート型をしたまちで人口約一万一千人の町です。町の中央部を清流市川が流れ、その昔、船渡しに十石舟が往来した穏やかな川面に、田園と山並みが映ります。「羅生門」「七人の侍」など、日本映画の黄金期を築くとともに、世界的にも認められているシナリオライターの第一人者である故橋本忍氏の生まれ故郷でもあります。

【消防団の構成】

昭和三〇年七月二五日、川辺村、瀬加村、甘地村、鶴居村の四村の合併によって市川町が誕生し、それに伴い旧四村の消防団が統合され、市川町消防団が発足しました。平成一九年四月一日に神崎郡三町の神河町、市川町、福崎町は姫路市に消防事務を委託し、市川町は現在、姫路市中播磨消防署の管轄となっています。それに伴い、市川町消防団も現在は姫路市中播磨消防署と連携して消防活動や訓練に取り組んでいます。構成は四地区二六分団で、羽岡和浩団長率いる約四三〇名の団員が消防団活動を行っております。団員平均年齢は三三・二九歳と県下トップクラスの、若者の活気があふれる消防団です。



操法演技披露



器具の説明



児童の放水体験

【あたらしい取り組み】

市川町消防団では、今年度新しい取り組みとして町内にある小学校の行事に参加し、地元消防団の役割や活動について説明しました。また新たに購入した四〇A無反動型ノズルを使つての児童による放水体験、ポンプ車等の装備品の説明をし、少しでも消防団を身近に感じてもらうため、児童の父親である消防団員が普段どのような活動をしているのかを知ってもらいました。今回参加した児童達に消防団の必要性・大切さを『体験』することで理解してもらい、近い未来に町の原動力となる若手消防団となって頂き、地域を守るヒーローになつて貰えればと願っています。

『兵庫県消防操法大会にむけて』 辻明男

神戸市北消防団長尾支団

兵庫県泉郡所在地の神戸市ですが、我が神戸市北消防団は六甲山の裏手に位置し、緑の中に新興住宅地が点在する田舎と町の両面を持つ地域にあります。その中でも最北に位置する長尾支団が今回神戸市を代表して四二年振りに「兵庫県消防操法大会」に出場することとなりました。四二年前は県大会で優勝し、全国大会にまで出場しましたが、今ではその面影は全く無く、ゼロからのスタートとなります。まずは選手候補者集めからですが、時代も大きく変わり、消防団員自身も定員割れ且つ高齢化の状況の中で、他チームと競えるくらいのやる気のある選手候補者を集められるか大変不安でした。案の定、大会に出場することに否定的な者もあらわれました。

かなりの練習時間を割かねばならないことや、それに伴う多大な出費からすると無理もありません。幸い、そんな中でも何人かは「頑張ってみよう」という団員も現れ、そういったメンバーを中心に選考し、何とか訓練開始に漕ぎ着けました。ほとんどの団員がサラリーマンで勤務日や勤務時間もバラバラ。訓練は土日祝日も関係なく、消防署の三日に一回の勤務に合わせて行う必要があり、時間は皆が集まりやすい夜八時〜十時と設定。なかなか訓練参加が難しい者も

ある中、なんと各自調整して、ほぼ九割以上の参加率で訓練しております。最初のころは体作りと規律訓練が中心でしたが、皆の動きをそろえるのも難しく、機敏な動きもありません。こんな様子で大丈夫かと大変不安になっておりましたが、それでもえらいもので、三カ月もたつと少しずつ様になってきました。動きにメリハリが現れ、スピーディーに無駄なく動けるようになってきました。

チームとしても、その多くが互いに意識の無い者の集まりでしたが、訓練を続けていくにつれコミュニケーションが図れるようになり、今では互いに意見を言い合えるようになつてきています。訓練は、まだまだこれから先は長いですが、お陰様で少しずつ上達し、正しい動きをスムーズに行えるようになってきており、団員自身の身の安全、ひいては地域の安全安心に繋がります。チームとしてもまとまっていけるのを見るにつけ、大変な訓練ではありますが、きつと「やつて良かった」と思えるかと確信しております。

また、地域の方々と消防団が有事の際に迅速な連携が取れる様に地域の皆さんと合同訓練や地区単位による高度な中規模訓練等を積極的に進めています。市川町の安心と安全を守る為に今後も積極的に活動して参ります。

今年の七月が大会です。長尾支団一丸となつて頑張つてまいります。



われら若手消防団員

～生まれ育ったこのまちのために～

～私の糧～



宍粟市消防団 中坪部 団員 勝木 祥文

私は就職を機に地元の宍粟市に戻ってきました。地元自治会の消防団の部長から勧誘を受け、令和五年四月から宍粟市消防団に入団しました。私が所属する中坪部は団員が四名と非常に少人数です。宍粟市だけではないと思いますが、少子高齢化や若者の流出等により団員の減少が深刻な問題であり、地元では近隣の部を交えた再編が協議されているところだと思います。私の父は、現在は退団して



三木市消防団 第四分団 分団長 藤原 淳一

私は、平成二七年四月に三木市消防団に入団し、八年が経過した現在、三木第四分団の分団長として活動しています。三木第四分団は、三木市の中で機動隊という位置付けにあり、有事の際の出動が多く、分団の管理者として、責任と緊張感を持ち活動しています。私は、実家の目の前に消防署があり、毎日消防車を見に行くほど消防車が好きで、消防車のサイレンの音で車両の違いが言えるほどでした。また、父親は消防団員であり、消防団活動を

身近で見えて、地域住民に頼りにされている姿にも憧れ、入団のきっかけとなりました。消防団活動では、入団したからこそ学び得る知識・技術があり、好きな消防車の運転や操作ができることが自慢であると共に、二〇代から六〇代までの幅広い年齢層の団員や、消防職員の方との関わり、また様々なイベントで市民の方と交流する機会も多く、コミュニケーションの広がりを感じています。これらの経験は、私の人生の糧となつていきます。近年の異常気象による災害や、今後起こるとされている南海トラフ地震に対して、私たち消防団員は地元のことを熟知している貴重な存在となつていきます。訓練等を通じて消防職員の方との連携を緊密にし、三木市の防災・減災に取組み、大好きなこの町を守る存在として貢献していきたいです。ですが、消防団で分団長を務めていたことがあり、子どもの頃からその姿を見てきました。仕事の休日でも朝早くから訓練が行われたり、年末でも警戒パトロールのため夜遅くまで巡回をしたりしていました。そのため、消防団に対して「大変だ、面倒くさい」というイメージがあり、入団するまでは消防団に入りたくないと思つていました。しかし、今では入団してよかったと思つています。消防団の活動や訓練は大変ですが、たくさんの人との繋がりができ、生まれ育つた地元で貢献できていると感じるからです。私も父や先輩方のように消防団の団員としての自覚をもち、生まれ育つた大好きなこのまちを火災や災害から守る活動をしていきたいと強く思います。



『安心・安全なまちづくりを目指して』

丹波市消防団

丹波市消防団は、面積四九三・二一平方キロメートル、人口約六一〇〇〇人の丹波市を管轄とし、一本部六支団二九分団九二部（女性分団含む）の団員定数一七〇六名で構成しており、消防ポンプ自動車三一台、小型動力ポンプ付積載車六三台で活動しています。

ざとい時のための連携強化等を図ることを確認しました。

【水防講習会】

水防月間中に、市民生活の安全・安心のため、出水期に備えるべく団幹部を中心に水防活動や気象情報、防災情報の収集について学び、各支団等で協議を実施しています。

【現場指揮図上訓練】

新たな試みとして、火災等の災害現場で指揮をとることになる団幹部を対象に、管轄区域内で複数パターンの火災が起きたと想定して、その際の指揮系統や水利の確保、団員の動き等について図上で確認し、意見交換等を行いました。

【交通安全講習会】

消防団活動における消防車両の通常走行、緊急走行時の注意事項を認識し、現場活動を安全かつ効果的に行うため、各部より数名ずつを対象（主に新入団員中心）に交通安全管理に対する知識の習得を目的に実施しています。

【予防科研修会】

消防団活動における予防消防の重要性を認識し、予防消防等を効果的に行うための知識の習得を目的として、消防本部から講師を招き、各支団

【初出式】

令和五年度より表彰伝達をメインとした式典方式に変更し、実施しました。また、式典後は管轄地域内の自治協議会長等と懇談の場を設け、い



土嚢積み



特別機動隊

『南あわじ市消防団の活動について』

南あわじ市消防団

南あわじ市消防団は団員数二一四一名（令和五年四月一日現在）で、藤原広規団長のもと、地域住民の生命・財産を守るため、日々鍛錬し、また火災予防啓発にも注力し、火災件数の減少にも取り組んでおります。

の部長・班長を対象に研修を行っています。

【兵庫・丹波地域合同防災訓練】

令和五年度は丹波市において大雨による河川の氾濫や土砂崩れなど大規模な災害の発生を想定した県との合同防災訓練が実施され、消防団としては水防活動の要請を受け、積み土の工法と改良積み土の工法による越水対策を実施したり、倒壊家屋からの救助活動のため特別機動隊を新たに組織し、進入路確保のためチェーンソーによる倒木の切断やエンジンカッターによる鉄パイプ・単管の切断、除去作業を実施しました。

【春季・秋季火災予防運動】

全国火災予防運動に合わせ丹波市においても春季・秋季の年二回火災予防運動を実施しています。消防団全車両により分団単位等での車両連隊をつくり、各管轄区域内のパレードを行います。また、各部管轄区域内の防火水槽、消火栓等の一斉点検や各戸査察も合わせて行います。

【年末火災特別警戒】

市民が被災せず明るく希望に満ちた新年を迎えられるよう、火災予防の徹底を図ることを目的として、年末警戒を実施しています。実施期間後に団全体で発隊式を行った後、各支団毎に分かれて管轄区域内の巡回や無線交信、機械器具及び消防施設・水利等の整備や点検を行います。

ここで、本市消防団の活動をいくつか紹介させていただきます。

【消防団初出式】

南あわじ市の消防力を披露し、地域住民の方に消防活動への理解や信頼を深めていただくため、毎年新年三ヶ日を除く、第一日曜日に開催しております。昨年までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止または縮小した形での開催でしたが、本年は令和二年依頼四年ぶりに従来どおりの規模で一月七日に開催し、消防車両三三台・団員一〇七〇名が参加しました。藤原広規団長の訓示を受け、地域防災の要として、『自分たちのまちは自分たちで守る』という意志を再確認し、防災力の強化に向けての決意を新たにしました。



【消防操法大会】

消防技術の向上と消防団員の士気・連携意識の高揚を図り、消防団活動の強化と市民の理解を深めるために毎年実施しております。令和二年度から四年度においては、コロナ禍により大会を中止しましたが、令和五年度は、新型コロナウイルスの第五類移行に伴い、開催することができました。団員の負担軽減の観点から、全国的に否定的な意見が取り沙汰される



る消防操法ではありませんが、南あわじ市消防団としては、消防力強化のために今後も継続してまいります。

【総合防災訓練】

近い将来発生が懸念される南海トラフ地震が発生したことを想定して、南あわじ市では、総合防災訓練



練を毎年実施しております。令和五年度は、一月一九日に賀集小学校で開催され、消防団員約六十名が参加し、小学生と一緒にポンプ放水訓練や、水消火器体験、ジェットシューターを背負った的当て体験を実施し、児童約一七〇名と交流を図りました。

【女性分団「なでしこ分団」】

女性団員二八名で構成される『なでしこ分団』は、団員が応急手当普及員の資格を有しており、総合防災訓練のほか、各種

イベントで地域住民に普通救命講習を実施しております。令和五年度は、志知地区連合自治会と共に災害時を想定した炊き出し訓練を行いました。また毎年市内の保育園を訪問し、ゲーム形式の防災教室を通じて子どもたちの防災知識の向上に努めております。



がんばってます、女性消防団員

播磨町消防団 第二五回全国女性消防操法大会出場！

播磨町消防団女性分団

私たちが播磨町消防団女性分団は平成一八年八月に結成され、現在は一四名で活動しています。

活動の内容は、「防災啓発劇」や「防災講座」、また地域の防災訓練での「水消火器の放水訓練」「簡易担架の作り方と運搬講座」など幼稚園、保育園、小学校、子供会、地域のコミュニティセンター、

ところで住民のみならず、対する火災予防指導や啓発、そして日々の取組みなどを掲載した「けすぞう新聞」を毎月発行し、防災についての情報の発信を行っています。

そんな私たちですが、令和五年一〇月二一日に東京臨海広域防災公園で開催された「第二五回全国女性消防操法大会」に兵庫県の代表として出場してきました。

令和四年九月ごろより練習を再開し、消防団本部をはじめ、男性の団員にも練習の支援をいただきながら、練習に

励みました。結果は入賞には届きませんでしたが、非常に貴重な経験をする事ができたとともに、一丸となって取り組んだことで、結束もより深まったように感じています。

大会は終わりましたが、今後も啓発活動を通じて、播磨町住民が安全・安心して暮らせるよう、私たち女性分団員が『明るく・無理なく・楽しく』をモットーに防火・防災啓発活動をより一層邁進していきたいと思っております。

大会の応援に来ていただいた播磨町長と播磨町議会議員との記念写真



大会の応援に来ていただいた播磨町長と播磨町議会議員との記念写真

わが町の団長さん

「結びのまち、一致団結をより強固に」



高砂市消防団長 三好 啓一

結婚式やめでたいときに詠われる「たかさごやこの浦舟に帆をあげて・・・」ではじまる謡曲「高砂」と平和と長寿の象徴である「尉と姥」のいわれの発祥の地である高砂市は、兵庫県南部播磨平野の東部に位置し、人口約八万七千人、面積が三四・三八平方キロメートルの比較的小さな市です。

当市の特徴は、歴史的な文化に加え、南部は瀬戸内播磨灘、北西部には播磨富士と呼ばれる高御位山、東部には一級河川の加古川があり、海・山・川と自然豊かな一面もあります。

高砂市消防団は、団本部及び七分団、定員六二〇名で構成され、消防ポンプ自動車七台、団本部に資機材搭載型車両一台、防災活動車一台及び小型動力ポンプ三一台で活動しています。

三好団長は昭和五二年四月一日に入団され、分団長、副団長を歴任後、令和五年四月一日、第九代高砂市消防団長に就任されました。

団長就任以来、災害出動に加え、毎月開催される幹部会議や、消防団の各種行事、訓練には必ず出席し、団員はもとより地域住民からも厚い信頼を寄せられています。普段

はとても温厚で、誰とでも笑顔で接される優しい人柄ですが、いざ災害となると消防団員をまとめ上げ、的確な指示により安全・確実・迅速な活動を実現しています。

日々変化していく社会情勢に対応し、地域住民のニーズに合った活動を行っていくとともに、団員どうしの繋がりを大切にした消防団を目指し邁進されています。

「わがまちの団長さん」



第九代三田市消防団長 中田 文雄

わがまち三田は、比較的低い山々に囲まれた盆地にあり、中央に武庫川が流れ、肥沃で広大な流域を形成して、古くから金心寺の門前町として栄えてきました。昭和三三年、周辺町村の合併により、人口三・五万人の三田市が誕生、同時に三田市消防団も発足しました。昭和四五年からの北摂ニュータウン開発により、武庫川の改修をはじめ、洪水調整や市民の水櫃としての役割を果たす青野ダムが建設され、またそれらに伴う一連の事業の進捗により災害の少ない安全なまちへと成長してきました。三田市は、郡部地域も広く消防団なくして地域の安全を守ることはできません。七つの分団の団員が一丸となり、地域の安全と発展を目指す心意気を大切に行っています。令和五年度からデジタル部と広報部を新設し、各団員と

も連携を図りながらSNSを利用した防火広報活動にも力を入れていきます。これからは新しいことに挑戦して、「常に前向き」をモットーに精力的に活動していきます。

「安全・確実・迅速」



丹波篠山市消防団長 田中 一裕

我が田中団長は、普段、穏やかさがにじみ出るような人柄で、「つつい心易く」「だんちよっ」と話してしまふのですが、火災出動となると「消防人」の相貌となり、その雰囲気は圧倒されます。一言で表すなら、「一意専心」。準備や安全への配慮も細やかで、いつも安心感を覚えます。

さて、団長の昔話に興じましょう。――昔々、丹波篠山の山奥に、「田中どん」と呼ばれる火消し人がおったそう。火消し人になって間もない頃、操法大会で唧筒自動車の機関員を命じられたんだと。そんなとき、大会前の訓練が消防学校であつてな、鬼教官から「おめえは、操法に向いた動きをしとる」と褒められたそうじゃ。それで気を良くした田中どんは、そりゃもう月火水木金と訓練に明け暮れ、そしたら、大会で見事にすんごい賞をもらつてなあ・・・、もらつ・・・、えーめでたし、めでたし――

で機敏な動きに見えた」とのことなんですって。

田中団長は、この経験から「操法は、現場での機具操作や安全管理をはじめとして消防活動の基本的な動きが学べ、団員訓練の機会として有意義なもの」であると、幹部を歴任される中で、操法の大切さを意識されてきました。令和六年は、本市でも六年ぶりに操法大会を開催します。多くの団員が取り組むことで、安全第一を基本に、常に有事を想定した活動に繋がっていくものと、団長は期待を込められています。

そうそう、丹波篠山市消防団の活動スローガンは「安全・確実・迅速」。田中団長の人柄と経験が、このスローガンに凝縮されているのです。

「高齢者も安心して暮らせるまちを目指して」



豊岡市日高消防団長 藤原 正利

豊岡市の西部に位置する日高地域は、面積の四分の三を山林が占める人口約一万六千人の自然豊かなまちです。山陰海岸ジオパークの一部である「神鍋高原」では、夏には登山やキャンプ、冬にはスキー、スノーボードと一年を通して様々なアクティビティを楽しむことができます。豊岡市日高消防団は、この日高地域を管轄する消防団で、一八個分団、団員数五四一名、車輛二二台で消防団活動を

行っています。藤原団長は、平成一〇年に入団され、副団長を二二年間勤められた後、令和五年四月に団長に就任されました。

団長は普段和菓子屋を営まれており、定番商品である栞餅（とちもち）や、団長の人柄同様やさしい味わいのいちご大福は多くの人から好評を頂いています。

そんな団長が消防団活動で最も注力していることの一つとして、地域の防火啓発活動が挙げられます。近年、日高地域では六五歳以上の一人暮らしの方が増えており、万一火災が発生した際に被害が大きくなる恐れがあるため、わが団では火災を未然に防ぐために団員による定期的なパトロールや、消防署の協力の下で高齢者世帯の家庭に訪問し、調査・指導を行うなどの予防消防に努めています。

今後も「消防力は団結力」を合言葉に、藤原団長の指揮の下で、高齢者も安心して暮らせるまちづくりに団員一同邁進していきます。

明石市消防団は、昭和二二一年に発足し、現在は、一団八分団、団員数九七一名となっています。

藤田団長は、昭和五七年に明石市消防団に入団し、令和元年から副団長を務め、令和五年四月に消防団長に就任され、これまで四〇年以上消防団活動に尽力されています。

藤田団長は、火災から自分や周りの人を助けるには、初期消火が最も大切であるという信念の下に、入団当初から積極的に活動され、様々な火災現場に出動し、時には常備消防到着前に消火活動を実施し、火災による被害を最小限にするなど、率先して災害活動を行っています。また、地域の行事にも積極的に参加し、地域の防災力だけではなく、地域コミュニティの推進にも取り組まれています。消防団の役員に就任されてからは、災害活動だけではなく、これまでの経験を生かして、消防団の方針決定や部下育成などにも取り組まれています。

「消防団から地域防災力の向上を」



明石市消防団長 藤田 次男

明石市は、瀬戸内海に面し、日本標準時となる東経一三五度子午線に位置しています。豊かな漁場で、タイやタコなどが有名であるほか、農業や地場産業なども盛んに行われており、名物の「玉子焼」は全国的にも有名となっています。

豊岡市は、平成十七年四月一日、兵庫県の北東部に位置する一市五町（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）が合併してできたまちです。県下で一番広い面積を有している本市は、合併前の旧市町単位に消防団を設置する多団制を採用しています。

令和五年四月一日に就任された中村団長は、一四分団四一九名で構成されている豊岡市豊岡消防団の団長だけではなく、大規模災害等が発生した場合に市内の六消防団を統括指揮する「豊岡市連合消防団長」という重責も担っておられます。

就任された際には安全・確実・迅速という三つの基本方針を挙げられ、団員一人ひとりの能力向上を目指されています。

お仕事は靴製造業を営まれ、忙しい家業の傍ら四〇年間に渡り、地元に着した消防団活動を展開し、団員が活動しやすい環境づくりにも気を配られ、市民、団員を問わず信頼が厚い団長です。今後も消防団一丸となり、火災予防に積極的に取り組む、市民が安全・安心に暮らせる町を目指して、日々活躍されています。

「安全・確実・迅速！」



豊岡市豊岡消防団長 中村 正義

「消防団での経験が、いざという時に大切な人を守ることに役立つ」ことから、消防団員の育成や新たな団員の募集を推進し、明石市消防団から地域の防災力向上を目指します。

〜お詫ごと訂正〜
令和五年九月一五日付け発行「兵庫消防第六九九号」の消防団ビッグアップのページにおいて、「豊岡市城崎消防団」の記事のタイトル部分に、誤って「三田市消防団」との表記を行っていました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。